

教育資料館

1. 建物の経過

- 明治21年(1888年)10月 落成。木造素木造り二階建て。
昭和38年(1963年)7月 県重要文化財に指定される。
昭和48年(1973年)4月 明治22年(1889年)以来86年間使用された校舎としての役割を終える。
昭和54年(1979年)7月 宮城県登米高等学校校舎改築の為、一年間県に貸与する。
昭和56年(1981年)6月 国重要文化財に指定される。
昭和59年(1984年)8月 登米中学校新築の為、仮校舎として使用する。
昭和62年(1987年)10月 二年に亘る保存修理工事開始。工事費二億四千万円。
平成元年(1989年) 「教育資料館」として一般公開を開始する。

2. 常設展示の内容

- ・大正時代の授業風景を再現した教室。
- ・明治から昭和まで使われていた机、椅子、オルガンがある教室。
- ・灰を入れて使ったアイロンや足踏みミシンが展示してある裁縫室。
- ・明治・大正・昭和・平成の教科書が沢山展示してあります。
- ・明治・大正・昭和の学校日誌、卒業証書、通信簿などが展示してあります。
- ・明治からの町の様子分かる写真が展示してあります。
- ・歴史と文化を尊び三百年以上に亘り継承されてきた伝統ある祭りの山車の展示教室。

3. みどころ

- ・木造素木造り二階建て、学校としては珍しいコの字型の吹き抜け廊下、正面には**バルコニー**を構えておりここに立つと、どの教室も見ることが出来ます。
建物全体が学校らしい、柔らかな雰囲気を持っています。
- ・校舎の両端は特異な形の**昇降口**になっています。
天井の組みが六角形のため、六方(ろっぽう)と呼ばれています。
六方の土間は、セメントの代わりに粘土、砂、砂利、石灰を粘り搗(つき)固めた、三和土(たたき)で仕上げられています。
- ・教室の両側はすべて**窓ガラス**で採光に十分配慮してあります。
窓ガラスの中で、ゆがんで見えるものは建設当時のガラスです。
- ・外側に面した窓枠には、**水抜き穴**の細工が施されています。
- ・室内を明るくする為、廊下の壁は白色、教室内は光の乱反射を防ぐ為、灰色とするよう定められていました。
- ・お帰り際には、前庭の真ん中に立ってみてください。
木造独特の和らかな雰囲気が伝わってくると思います。

4. 裏情報(施設の出来事等)

設計・監督者 山添 喜三郎(やまぞえ・きさぶろう)

天保14年(1843年) 9月15日 新潟県角海浜村(現在の巻町角海浜)に生まれる。

明治 初年頃 上京して建築大工となる。

明治 6年(1873年) オーストリア万国博覧会に大工棟梁して参加。

会場に日本家屋を建築し多くの外国人にそのすばらしさを認識させる。

明治16年(1883年) 仙台市三居沢紡績工場建設工事の工事監督に招かれる。

明治18年(1885年) 宮城県建築主任として県庁職員に迎えらる。

明治20年(1887年) 登米村小学校校舎新築の設計担当に指名される。

4月 起工式

明治21年(1888年) 3月 上棟式

10月 落成式

明治22年(1889年) 4月 登米警察署庁舎完成。

以後も県内の学校などの建築物を手がける。

大正12年(1923年) 3月16日 仙台市で永眠。(享年81歳)

山添は仕事には極めて忠実で、その結果工事や資材の選定にはずいぶんと厳しかったようで、今でも次のようなエピソードが語り伝えられています。

屋根瓦・材木業者は

瓦は一枚一枚重さを測り、一夜水に漬け翌日又重さを計って吸水量を調べ一定以上の量目の瓦は不合格品としてハネました。

材木も検査が厳重でハネ材が多く出された。

結果、納入する瓦屋は次々と倒産し、材木供給業者は家産を傾けたといわれる。

大工棟梁は

工事も洋風建築様式が多く工法に慣れていない大工の苦労も並大抵ではなく、予想以上に手間暇がかかり、工事の請負をした大工棟梁は家財を売り払っても借財が残り夜逃げ同然でこの地をたち去らねばならなかったという。

恨みを抱く工事業者は

工事の厳しさから山添に恨みを抱く者があり、検査の為屋根に登ったところ、梯子をはずされて昼食になっても、夕方になっても下に降りられなくなったとか、或は仕事を終えて宿に戻る際、川へ人力車ごとほうり込まれたこともあったという。

山添喜三郎について言い伝えられている数々のエピソードは、単に彼の仕事を非難するものではなく、彼が職務に忠実であり、校舎建築の責任の重大さを自覚して、後世に残る立派な建物を造ることに専念したかを伝えるもので、現在町民はむしろこのような彼の妥協を許さない態度によって、今日まで残る堅牢優美な校舎が出来たことに敬意と感謝を込めて語り継いでいます。

5 . 体験

- ・ 明治から昭和初期の校長先生風の背広、女性用袴、子供用の着物が揃っています。自由に試着し、来館の記念に写真撮影はいかがですか。
- ・ 昔、ノート代わりに使っていた石盤、石筆が「ふれあい教室」にあります。実際に書いてみて下さい。
- ・ 「再現教室」には昔使われた机、椅子があります。椅子に腰掛け、机に触れてみて下さい。又、オルガンは音がなりますので引いてみて下さい。

6 . その他(販売グッズ等)

事務室にて各種グッズなどを販売しております。

- ・ ランドセルホルダー 本革 / ランドセルを開くと百円玉が5枚入ります。
- ・ 石盤、石筆のセット 登米産のスレートを使用。昔ノートの代わりに使用したもの。
- ・ ストーンアート スレート石の自然の紋様を生かし、石と自分の対話を重ね描く、生田目富紀夫(なまため・ときお)の絵画。
- ・ 木 版 画 東北の風土や植物などを題材にした、伊藤卓美の木版画。お手ごろな葉書きも有ります。

その他、いろはカルタ、昔懐かしの学校グッズも多数取り揃えております。どんな物に出合えるかお楽しみに。